

❖ 科目名 Course Title			
中国語演習 中級：中国の教育事情を学ぶ			
❖ 担当教員 Instructor			
張 揚			
❖ 開講学期 Semester	前期	❖ 対象学年 Year	1～
❖ 履修可能人数 Capacity	5 (遠隔) 5 (対面)	❖ 単位数 Number of Credits	2
❖ 授業形態 Type of Class	演習		

❖ キーワード Key Words	
中国語文章、中国における教育事情、教育制度、教育改革、読書	
❖ 授業の目的 Course Objectives	
❖ 授業概要 Course Description	
本演習では、受講生の聴く・話す・読む・書くの総合的な応用能力の養成を重視し、難しい文法の説明を避け、グループ学習のなかで、受講生の皆さんに中国語学習の面白さを感じさせると現代中国の教育事情を学ばせる。	
❖ 到達目標 Course Goals	
授業では中国の教育制度、教育改革、学校と子どもの現状に関する文章（文章の難易度が中級レベルである）やドキュメンタリー映画を取り上げ、読書、鑑賞、分析とディスカッションを通して、受講者に次の3点に到達させる。 ①中国語で書かれた文章を読み、内容を正しく理解することができる ②現代中国における学校教育の実態を把握する。 ③現状の背後に隠されている教育課題を見つける。	
❖ 授業計画 Course Schedule	
<p>全15回で実施する。</p> <p>第1回 ガイダンス、学生による自己紹介（中国語）、グループ活動</p> <p>第2回 中国の教育制度・概説（講義、ディスカッション、次週の授業で用いる中国語文章のプリント1～2ページを配布する）</p> <p>第3～5回 まず、課題文の朗読を順次指名して進めていく。次に、担当教員による難点についての解説を行う。最後に、受講者同士でグループを作り、内容理解の確認と疑問点の解消、そして内容に関する意見交換、議論を行う（教員が適宜指導／解説を行う）。</p> <p>第6～8回 まず、中国の教育事情に関する映画等を鑑賞する。次に、受講者同士でグループを作り、内容理解の確認と疑問点の解消、そして内容に関する意見交換、議論を行う（教員が適宜指導／解説を行う）。最後に、意見をまとめて発表する。</p> <p>第9～11回 まず、課題文の朗読を順次指名して進めていく。次に、担当教員による難点についての解説を行う。最後に、受講者同士でグループを作り、内容理解の確認と疑問点の解消、そして内容に関する意見交換、議論を行う（教員が適宜指導／解説を行う）。</p> <p>第12～14回 まず、中国の教育事情に関する映画等を鑑賞する。次に、受講者同士でグループを作り、内容理解の確認と疑問点の解消、そして内容に関する意見交換、議論を行う（教員が適宜指導／解説を行う）。最後に、意見をまとめて発表する。</p> <p>第15回 まとめと学習の振り返り（最終レポート作成にむけて、各自の構想について交流を行い、執筆方針を確定させる）</p> <p>注：受講生皆さんの実際の語学力に応じて、授業内容を変える可能性がある。テキストを購入する必要がない。</p>	
❖ 成績評価 Grading System	
<p>授業回数の8割以上の出席を成績評価の条件とする。授業への参加態度（50%、授業への取り組み・グループ活動の積極性・発表内容等を含む平常点）、レポート（50%）を目安に評価する。</p> <p>最終的な評価（「A+」から「F」までの11段階）においては、成績に極端な偏りがないよう十分配慮する。</p>	

❖ テキストTextbooks
❖ 参考書Reading List
❖ 準備学習Homework
本演習は、必修の「中国語Ⅰ,Ⅱ」の履修によって、中国語の基礎レベル（発音の基礎、一通りの基本文法）を身に付けた学習者を対象とする。演習用の参考資料を事前に配布し、授業時間以外の積極的かつ主体的な準備学習が求められる。
❖ オフィスアワーOffice Hour
❖ 連絡先（E-mail）E-mail
❖ 質問・相談への対応方法Contact Information
❖ 履修上の注意Notes
❖ 備考Other Information
担当教員は主に教育制度、教師教育と日中両国における学校教育に関する研究を行っている。中国の社会、教育事情等に関心を持つ者、或いは世界的な教育改革の動向や課題について興味を持つ者に、本演習の受講を勧める。

※「対象学年」と「単位数」は、科目提供大学における数字であり、受講大学に応じて異なるので、所属大学で確認してください。

※「履修可能人数」は、科目提供大学以外の人数であり、遠隔と対面それぞれの受講形態で履修できる人数を示しています。（例.5（遠隔）、5（対面）:遠隔授業で5名、対面授業で5名まで履修可能。）

※北海道大学の対面授業は、教室の収容人数によって履修できない場合があります。